

能にする才能に恵まれます。

「命宮の主星が弱く、羊刃・陀羅・火・鈴が加会すると」口先でごまかそうとする姑息な性格になります。また、口舌の災いや訴訟のトラブルにあいやすいので要注意です。

「化忌が同宮すると」学科面で運の悪さをもたらし、とくに年運にさしかかると「文章や契約上の過失」に悩まされます。

P200の〈例〉にある通り、東京子さんの命盤では

財帛宮十身宮に文昌星が入り、夫妻宮に文曲星がいます。じつは京子さん、弱冠23歳にして職業はフリーランスのライターなのです。武曲と天府という財の星とともに輝く文昌星。若くして独立し、そこそこの成功を収めています。

文曲星は夫妻宮にいますよね。彼女はわりと若くして結婚する暗示があります。

いまつきあっている彼は音楽関係の仕事をしています。貪狼星が入っていることでもわかりますが、若いころは飲食関係や水商売でお金を稼ぎ、好きな音楽を続けている年上の男性です。



③ 左輔星 左 ④ 右弼星 右

「補佐・計画・交友」

双子星で『援助』をつかさどります。

左輔星は陽の土星に属し、左大臣の役割です。

右弼星は陰の水星に属し、右大臣の役割です。

ともに「北斗助星」で、一種の野心をもっています。

左輔・右弼を命宮にもっている人は、さっぱりと整った顔だちをしています。聡明で知性が高く、おだやかな性格です。社交的で、慈悲の心があります。人の面倒をよく見るので、多くの友人知人に恵まれ、助け合う人生になります。

文章や会話が得意で、芸術に興味をもちますので、文昌・文曲と同じく作家や演劇家・音楽家・評論家・各種ライター・デザイナーなどクリエイティブな仕事に適します。

遷移宮に入ると一生を通じて予期せぬ援助を受けます。また兄弟宮に入ると交友関係が長続きします。この両星が父母宮と兄弟宮にあれば『左右挾命格』となり、苦しいときに恩師や友人の助けを受けます。